

左京六条三坊八町の調査

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

はじめに この調査は京都市立修徳小学校跡地に計画された総合福祉施設の建設にともなうものです。修徳校は明治2年に創立された日本で最も古い小学校のひとつですが、ここは平安京左京六条三坊八町の南西部に該当します。

平安時代、このあたりには、具平親王（村上天皇皇子）の邸宅である千種殿をはじめ、小六条院・六条殿・五条東洞院御所などの貴族の邸宅や院の御所が点在していました。また室町時代には商工業をいとなむ人々が集住する左京の中心域の一面にあたります。応仁の乱による被災で、一時さびれてしまったようですが、江戸時代前期頃から再開発され、活気を取り戻していったようです。

遺構 発掘調査では、平安時代から江戸時代の遺構が多数見つかりました。また下層では、南西方向へ流れる古墳時代前期の川を検出しました。左岸寄りに多量の土器が出土したほか、岸沿いに並ぶ柵や住居跡がありました。

平安時代の遺構では掘立柱建物のほか井戸・町小路東側溝・同路面・内溝・樋口小路側の内溝などが主要なものです。この他に2箇所、地鎮遺構を検出しました。土師器甕の中に小石を入れ、甕の上部や周囲に土師器皿を埋納したものです。町小路の路面は平安時代から



写真1 平安時代前期の建物跡 後世の遺構が複雑に重なっている左京で、平安時代前期の建物の全体が検出できた例は少ない。

鎌倉時代にかけて数回の舗装や補修がみられ、その厚さは約1mに達します。

鎌倉・室町時代の遺構は室とみられる方形の遺構や井戸・溝・土壙などがあります。室の床面には焼締陶器の甕の破片や石を敷き詰め、周囲の壁に板を張ったものや、壁に沿って並ぶ礎石や柱穴をもつ

ものもあります。

桃山・江戸時代初期の遺構には井戸・溝・土壙・柱穴などがあります。土壙には鉄滓・鞆の羽口・焼土・炉壁片などが多量に廃棄されたものが数基ありました。鑄型が全く含まれていないので、鑄造ではなく溶解炉に関係するものでしょう。近くに製鉄関係の工房が



写真2 江戸時代の井戸 古い井戸（写真奥）の石組みの一部を残して手前に井戸を作り替えている。



写真3 室町時代の室 壁際に柱穴が並ぶ。壁には板を張った痕跡がある。



写真4 平安時代の地鎮め跡 土師器の甕に土師器の皿で蓋をする。甕の中には赤色の小石が入っていた。



写真5 川岸から出土した古墳時代前期の土器 岸に捨てられたままの状態出土した。

あったことが推測できます。

これらの遺構には、敷地の境界を示す溝や柱穴列などがあり、土地利用の変遷がうかがえます。

遺物 遺物は整理箱に約1,300箱出土しました。大半は土器・陶磁器類と瓦類で、その他に銭貨・煙管・飾り金具などの金属製品や硯・石鍋・石臼・砥石など石製品、あるいは下駄・木槌・漆器碗や箸といった木製品があります。遺物の主体をなす土器・陶磁器類の破片数は70万片以上にのぼり、その時期も種類も豊富です。

古墳時代の遺物としては川から多量に出土した土師器があります。分布は左岸近くに集中しており、これらは完全に復元できる土器も

多く、川岸に捨てられた状態のまま埋没したものでしょう。

平安時代の遺物は溝や井戸からまとまって出土したものが多く、土師器・須恵器・黒色土器を主体に緑釉陶器・灰釉陶器など国産陶器の他、白磁・青磁・青白磁など中国陶磁器もあります。

また、石製の帯飾り具やその石材の破片が多量に出土しており、この地で石帯が作られていたことがわかりました。

鎌倉・室町時代の遺物には土師器・須恵器・瓦器・焼締陶器・山茶碗・古瀬戸のほか、白磁・青磁・褐釉など中国陶磁器や漆器などがあります。中国陶磁器のなかには青白磁香炉や吉州窯の玳皮天目碗

など優れたものも含まれています。

桃山・江戸時代の遺物には土師器の他、志野・織部など瀬戸・美濃や唐津・伊万里あるいは信楽、丹波、備前等々、豊富な国内各地の陶器類や明染付、白磁などがあります。

おわりに 今回の調査ではこの地域の歴史の変遷を裏付けるように各期の遺構・遺物を多数検出しました。平安時代前期の建物や町小路、樋口小路などの平安京関連の遺構、それに続く鎌倉、室町、桃山、江戸時代の多数の遺構・遺物群はこの地域の都市住民の生活・文化の歴史を明らかにする上で欠くことのできない重要な資料になるでしょう。 (平尾 政幸)